

長瀬賢（幼名） 畫家。明治四十五年岐阜縣慕那郡福岡町生れ、昭和二十年一月歿（一九三二・八七）。署名長、MAGASE等。昭和五年慕那郡中學校卒。中學時代一級下の伊藤律がゐる共遊人が仲たつたといふ。川端繪畫研究所の學ぶ。十三年入隊して中支へ、十六年一度目の應召で滿洲に出征、大陸各地の風物、兵隊生活の畫文を『大阪朝日新聞』に連載して好評を得、のち『姑娘通信』（昭和十九年三月一日大阪・大鏡閣）と題して出版。その後川崎航空機工業株式會社政軍工場鑄成課の勤務し、三浦環、原節子、林芙美子等の工場慰問に携はつた。戦後朝日新聞社に入社。

畫集 『戦後派禮讚』（昭和二十九年七月一日白川書院）、隨筆集 『落葉』（昭和五十四年八月二十四日神奈川・私家版）等。

